

今後の在り方と可能性を探る試みとしての顕彰事業

認定NPO法人しみん基金・こうべ

1. 事業の目的

能登半島地震の際の災害対応に、30年の間に行われて来た災害支援の経験がほとんど活かされない現実を目の当たりにした時、憤りの気持ちと共に、当団体が行ってきた助成事業に間違いが無かったのかという疑問を持つに至り昨年度はメインである助成事業を顕彰事業に変更するという大きな決断を行い、新たなあり方、可能性を探ることを目的とする。また支援を受ける側と支援をする側とがおたがいさまの精神で、「利他を送る」という寄付文化の醸成も目的としている。

2. 活動内容

助成事業に対する相談対応 9件 ヒアリング 15団体

情報提供・ネットワーク

- ・昨年度顕彰提案団体のプラッシュアップワークは3月と6月に実施。今年度顕彰提案団体のプラッシュアップワークは来年3月実施予定。
- ・今年度再開した助成事業の公開審査会を11月に実施。
- ・昨年度顕彰提案やワークの報告書を作成し広く配布した。
- ・HP、SNS、メルマガ発行などにより関係各団体からよせられた情報等の発信
- ・ニュースレターの発行 年3回
- ・グーグル広告、ヤフーネット募金を使った情報発信

公開審査会



グーグル広告 回表示、クリック数回、クリック率% (4/1~1/の9ヶ月間半弱)

人材育成

- ・6月中央区文化センターにて昨年度顕彰提案プラッシュアップ講座実施 54名参加（アドバイザー等含む）
- ・11月助成事業公開審査会実施 46名参加（スタッフ含む）
- ・12月に黒田裕子賞贈呈

報告冊子



認定NPO法人
しみん基金・こうべ

3. 成果と課題

被災地支援活動に限定していた特定枠助成は申請団体も固定化していたが、顕彰事業に変えることにより異分野の団体が普段の活動の中で災害時に思いを致し、プラッシュアップワークで多様な参加者とともに普段の活動や日常の気づきを議論することができた。

4. 今後の展望

特定枠助成は顕彰事業に変えることで一歩前進することができた。被災地支援団体だけが災害時の活動を考えるのではなく全ての団体に災害時の活動を考えてもらえるよう継続していきたい。